

科目責任者 馬場 正樹（臨床漢方研究室）

■ 教育目的

近年、伝統医学・伝承薬物が見直されてきており、医療現場でもその知識が要求されつつある。特に、漢方医学は広範な知識を必要とするため、漢方医学・中医学の基礎理論を中心に概説し、その理論体系を学ぶ。また、実際に処方の製剤も体験する。

■ 学習到達目標

1. 漢方の基礎理論および概念を理解する。(知識)
2. 代表的な処方の方意を理解し、その適用を概説できる。(知識、技能)
3. 漢方の処方選択に至るプロセスを説明できる。(知識、技能、態度)
4. 日本を含む世界の伝統医療の現状について概説できる。(知識)

■ 準備学習（予習・復習）

予習：教科書・参考書等の該当箇所に目を通しておく

復習：ノートや講義プリントを教科書・参考書等で確認する。インターネット情報は誤りも多いので安易に検索した情報を信頼しないこと。質問は随時受け付ける。

■ 授業内容

抽象的で難解とされる中医学・漢方の独特の理論体系を、できるだけ平易に、実際の処方や症例などの具体例を交えながら解説する。また、後半は処方解説に加えて漢方製剤の実習を行い理解を深める。

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	漢方基礎理論 (1)	東洋医学の歴史 東洋医学の理論背景	E2(10)-①-1 E2(10)-②-3
2	漢方基礎理論 (2)	東洋医学の理論背景 配合生薬の四気五味（気味・性味） について	E2(10)-①-1 E2(10)-①-3
3	漢方基礎理論 (3)	東洋医学の理論背景 陰陽、五臓六腑について	E2(10)-①-1 E2(10)-①-2
4	漢方基礎理論 (4)	東洋医学の理論背景 陰陽五行・八綱分類について	E2(10)-①-1 E2(10)-①-2
5	漢方基礎理論 (5)	気血水について 気血水理論の基礎 (1)	E2(10)-①-1 E2(10)-①-2
6	漢方基礎理論 (6)	気血水について 気血水理論の基礎 (2)	E2(10)-①-1 E2(10)-①-2
7	漢方基礎理論 (7)	気血水について 気血水理論の基礎 (3)	E2(10)-①-1 E2(10)-①-2
8	漢方基礎理論 (8)	六病位について	E2(10)-①-1 E2(10)-①-2
9	漢方の実際 (1)	老人に用いられる漢方処方解説 腎虚の漢方処方製剤実習	E2(10)-②-1 E2(10)-②-2 E2(10)-②-3 E2(10)-③-1
10	漢方の実際 (2)	消化器症状に用いられる漢方処方解説 気虚・水毒の漢方処方製剤実習	E2(10)-②-1 E2(10)-②-2 E2(10)-②-3 E2(10)-③-1
11	漢方の実際 (3)	ストレスに用いられる漢方処方解説 気虚・気滞の漢方処方製剤実習	E2(10)-②-1 E2(10)-②-2 E2(10)-②-3 E2(10)-③-1
12	漢方の実際 (4)	女性の冷えなどに用いられる漢方処方解説 血虚・瘀血・水毒の漢方処方製剤実習	E2(10)-②-1 E2(10)-②-2 E2(10)-②-3 E2(10)-③-1

No.	項目	授業内容	SBO コード
13	漢方の実際 (5)	風邪などに用いられる漢方処方解説 六病位に基づく漢方処方製剤実習	E2(10)-②-1 E2(10)-②-2 E2(10)-②-3 E2(10)-③-1
14	漢方の実際 (6)	代表的な薬局製剤である丸剤の処方解説および製剤実習	E2(10)-②-1 E2(10)-②-2 E2(10)-②-3 E2(10)-③-1
15	漢方の診断法	漢方の診断法の解説 四診、特に腹診についてシュミレーターを用いて解説する	E2(10)-②-1

■ 授業分担者

馬場 正樹 (No.1～15)、矢久保修嗣 (No.9～15)

■ 課題 (レポート、試験等) のフィードバック及び成績評価方法

定期試験は課さず、出席・受講態度 (50%) およびレポートの提出状況及び内容 (50%) により総合的に評価する。レポートは次の回で一部を引用して解説し、質問は随時受け付ける。

■ 教科書

『学生のための漢方医学テキスト』日本東洋医学会学術教育委員会 編 (南江堂)

■ 参考書

『薬学生のための漢方医薬学』改訂第3版 (南江堂)

『薬学生・薬剤師のための知っておきたい生薬 100』日本薬学会 編 (東京化学同人)

『漢方の処方と方意』石毛 敦・西村 甲 著 (南山堂)

■ その他

3年次後期に伝統医学概論の受講を希望する学生は、本講座を受講することが望ましい